東インド会社と対中貿易

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

交易と帝国の間に立つ会社

1600年に特許状を得たイギリス東インド会社は、19世紀初頭には比類のない混成体となっていました。株主がロンドンに集う株式会社であると同時に、自らの軍隊と文官組織を通じてインド亜大陸の広い地域を統治する主権的権力でもあったのです。その社員は商人であり、行政官であり、外交官でもありました。彼らの決定は、商業上の計算、イギリス国家の戦略的利益、そしてアジアにいる幹部たちの野心によって左右されていました。[1]

議会は、特許状の定期的な更新を通じて会社を監督しました。1813年特許状法は、茶とアヘンの交易および対中貿易を除き、インドにおける会社の商業独占を廃止しました。[2]1813年以降、イギリスの民間商人はインドと自由に交易できるようになりました。一方、対中貿易は、1833年インド統治法による次の特許状更新まで会社の独占領域にとどまりました。[3]シンガポールが建設されたのは、この2つの法律の間の時期です。当時、対中貿易は会社の最も価値ある事業であり、民間商人からの圧力が強まっていた分野でもありました。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

対中貿易と茶の独占

対中貿易の中心には茶がありました。18世紀を通じてイギリスで中国茶の需要が高まるにつれ、広州での会社の買い付けは、会社の利益の主要な源泉となりました。茶の到着時に課税したイギリス国家にとっても、重要な歳入源となりました。中国当局は外国貿易を広州に限定し、公許商人の組合である行商（ホン商人）に委ねていました。外国人は彼らから銀で購入しなければなりませんでした。[4]

インドから広州への航路は、マラッカ海峡とシンガポール海峡を通過していました。カルカッタ、マドラス、ボンベイから中国へ向かう船には、嵐を避け、水や食料を補給し、モンスーンを待つための港が必要でした。会社は1786年に建設したペナンを保有していました。1818年の時点では、ナポレオン戦争中に占領したマラッカとジャワも引き続き保有できると見込んでいました。しかし講和の取り決めによってこれらの領土がオランダに返還されると、海峡の南の出口はオランダの影響下に置かれることになりました。[5]

カントリー・トレーダー、アヘン、銀の問題

会社は対中貿易における銀の問題を、その後1世紀にわたり東南アジア経済を形作ることになる方法で解決しました。カントリー・トレーダーと呼ばれるイギリスとインドの民間商人が、インドの商品を中国と群島の港へ運んだのです。その中心は綿花と、会社がベンガルでの生産を管理していたアヘンでした。カントリー・トレーダーが中国で得た銀は、ロンドンまたはインドで支払われる為替手形と引き換えに、広州の会社の金庫に払い込まれました。会社はその銀で茶を購入しました。[6]

この仕組みは注目に値します。その本質において、一つの金融システムを表しているからです。商品はある方向に、銀は別の方向に、為替手形はさらに別の方向に動きました。カルカッタ、広州、ロンドン、そして海峡の港の商人たちは、これらの手形と互いの評判についての知識に基づいて、

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

相互に信用を供与し合いました。航路上の港は、交易の場であると同時に、信用ネットワークの結節点でもありました。シンガポールは建設の瞬間からこのネットワークに加わりました。第B部で検討するエージェンシー・ハウス（代理商会）は、このネットワークから生まれたものです。

アヘン貿易は、この仕組みの道徳的・法的な影でもありました。中国当局はアヘンの輸入を禁止していたため、その取引は密輸と役人の腐敗に依存していました。海峡の港では、アヘンは合法であり課税されていました。後述するように、その販売による収入はシンガポールの財政の柱となりました。港の成長と、後の世代が非難した交易との結び付きは、金融センターの歴史の一部であり、第B部で検討します。

1818年の戦略上の問題

1818年、アジアにいる会社の幹部たちは戦略上の問題に直面していました。マラッカとジャワがオランダに返還されることで、インド洋と南シナ海を結ぶ2つの水路、マラッカ海峡とスンダ海峡の両方をオランダが支配するおそれが生じたのです。オランダは1784年のリアウで、武力によって支配を押し付ける用意があることを示していました。しかも、その独占と課税の体制はイギリスの民間交易に敵対的でした。ペナンは南方航路を守るには北に寄りすぎていました。

インド総督ヘイスティングス卿は1818年、この地域に新たなイギリスの拠点を設けるための遠征に資金を出すよう説得されました。ただし、オランダと敵対しないことが条件でした。[7]この委任は慎重なものでした。会社は南方航路上に拠点を求めつつも、オランダとの衝突は望んでいませんでした。ナポレオン戦争後のヨーロッパにおいて、イギリスはオランダとの友好を重視していたからです。オランダの支配を弱める拠点を、オランダを刺激することなく獲得する。この2つの目標の間の緊張が、建設とそれに続く外交紛争を形作りました。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

注

1. 19世紀初頭における東インド会社の商業企業と領域権力という二重の性格については、Philip Lawson, *The East India Company: A History*, London, Longman, 1993及びH.V. Bowen, *The Business of Empire: The East India Company and Imperial Britain, 1756–1833*, Cambridge, Cambridge University Press, 2006参照。 ↩
2. Wikipedia, “Charter Act of 1813”（2026年9月閲覧）：“the Company’s commercial monopoly was ended, except for the tea and opium trade and the trade with China”。 ↩
3. Wikipedia, “Charter Act of 1813”（2026年9月閲覧）：特許状は次にGovernment of India Act 1833によって更新された。 ↩
4. 広州体制、行商（ホン商人）、対中貿易における銀の問題については、Paul A. Van Dyke, *The Canton Trade: Life and Enterprise on the China Coast, 1700–1845*, Hong Kong, Hong Kong University Press, 2005参照。 ↩
5. ジャワは1816年に、マラッカは1818年9月にオランダに返還された。1818年9月のオランダのマラッカ復帰については、Wikipedia, “William Farquhar”（2026年9月閲覧）参照。 ↩
6. インド、中国、イギリスの間の三角貿易と、アヘンおよび為替手形の役割については、Michael Greenberg, *British Trade and the Opening of China 1800–42*, Cambridge, Cambridge University Press, 1951参照。 ↩
7. Wikipedia, “Founding years of modern Singapore”（2026年9月閲覧）：ヘイスティングスは1818年、“fund an expedition to establish a new British base in the region, but with the proviso that it should not antagonise the Dutch”するよう説得された。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com